

体育科学習指導案

令和〇年〇月〇日 (〇) 第〇校時 (〇〇:〇〇~〇〇:〇〇) 授業場所: 体育館
小学校 〇年〇組 指導者 〇 〇 〇 〇

授業の視点: まわる、くぐる、跳ぶ、止まるなどの基礎的な運動を、自分の動きだけでなく友達動きをまねすることで、工夫した動きを考えることができるであろう。

1 単元 まねっこだいぼうけん (体づくり運動遊び)

2 単元設定の理由

(1) 教材観

近年、日常生活から外遊びが減少し、テレビゲームやカードゲームなどの一人屋内遊びを好む子どもも少なくない。また、地球温暖化も影響して、進んで外遊びをする児童が少なくなっていると感じる。このような状況から体育学習の導入期である一年生として、友だちと関わり合いからだを動かす楽しさを十分味わえるようにすることが重要であると考え。

本単元の運動に関しては、入学前に経験したことのあるような動きであり、やりたい、好きであるという気持ちはあるが、それぞれの運動に必要な、まわる・くぐる・跳ぶ・止まるといった基礎的・基本的な資質や能力が身につけていない。そのために、動きの幅が狭い。そこで、今回はいろいろな場を作り、その場で遊びながら、多様な動きにつながっていく基礎的・基本的な資質や能力をしっかりと身につけさせ、動きの幅を広げながら、体力の向上をはかっていきたいと考える。

また、友だちと協力して目標を達成していくという経験は、あまりしていない。まだ、自分のことで精一杯といったところが現状である。そこで、今回、学習の中にグループでの活動を多く取り入れ、協力して目標を達成していく楽しさも経験ができるという点にこの教材価値がある。

(2) 単元の系統性

低学年 体づくり運動遊び

体ほぐしの運動遊び
多様な動きをつくる運動遊び



中学年 体づくり運動

体ほぐしの運動
多様な動きをつくる運動



高学年 体づくり運動

体ほぐしの運動
体の動きを高める運動

(2) 児童(生徒)の実態 (男子〇名 女子〇名)

「関心・意欲・態度」

本学級の児童は、明るく元気で身体を動かすことを好む児童が多い。休み時間等は外へ出て汗びっしょりになるまで身体を動かして遊んでいる。遊びの種類は遊具遊び、校庭を走り回る、鬼ごっこ遊びなどである。

体育の授業においては、新しく経験するものが多いが、いずれも興味を持ち意欲的に一生懸命取り組むことができる。特に鉄棒は、どんどん上達する楽しさを知り、休み時間にも練習し上達した児童も多い。

友だちと関わり合って運動することの経験は少なく、本単元では友だちと関わり、友だちの動きの良さを認め合いながら運動に親しませたい。

「思考・判断・表現」

体育の授業や休み時間には意欲的に身体を動かそうとする児童が多いが、その動きはまだ自分の好き

なように動き、その運動に適した動きを考えたり工夫したりはできていない。指示にあった動きを考え、工夫して多様な動きを引き出したい。

「技能」

体育の授業では生活経験から技能に個人差がある。さらに一年生なので、運動経験が乏しいため、運動に必要な基礎的・基本的な資質や能力が身につけていない。動きの幅を広げ、運動遊びの楽しさに触れながら、体力向上を図りたい。

3 目 標

まわる、くぐる、跳ぶ、止まるなどの基礎的運動を、自分の動きだけでなく友だちの動きをまねすることで、楽しみながら運動に親しむことができる。

4 評価規準

	おおむね満足できる状況
知識・技能	まわる・くぐる・跳ぶ・止まるという基礎技能を身につけている。①
思考力・判断力・表現力	自分で新しい動きを考えたり、動きを工夫しながら取り組んだりしている② 友だちの動きを真似して、新しい動きを獲得しようとしている。③
学びに向かう力、人間性	友だちと仲良く楽しく運動したり、すすんで準備や片付けをしようとしていたりしている④

5 指導と評価の計画

過程	時	学習活動	支援及び指導上の留意点	評価項目（評価方法）
つかむ	1	<ul style="list-style-type: none"> ○オリエンテーションを行う。 ○学習のねらいを理解し、学習の進め方を見通す。 ○慣れの運動をする。 ○グループを作る。 ○運動のポイントをつかみながら、試しの動きをおこなう。 <ul style="list-style-type: none"> ・まわる ・くぐる ・跳ぶ ・止まる ○実際に動いてみての感想を話し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○学習計画、内容、注意点、用具の配置や準備、片付けなどについて説明をする。 ○用具の安全な準備、片付けの方法を丁寧に指示する。 ○様々な運動を体験できるように、運動の場を複数設定する。 	<ul style="list-style-type: none"> 関友だちと仲良く楽しく運動したり、すすんで準備や片付けをしようとしていたりしている（観察）④
ふかめる	2 ・ 3 本時	<ul style="list-style-type: none"> ○慣れの運動をする。 ○今できる動きにみがきをかける。 <ul style="list-style-type: none"> ・マット遊び ・ゴム跳び遊び ・跳び箱遊び ・フラフープバランス遊び ○友だちの良い動きを伝え合う。 ○友だちの動きを参考に、さらに工夫した動きを考える。 ○発表会で発表する動きを考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ○それぞれが相談する話し合いの場を設定する。 ○友だちの良い動きは、声かけするようにする。 ○今までできなかった動きができるようになった児童や、新しい工夫した動きを考えた児童を紹介し、全体に広げていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 思自分で新しい動きを考えたり、動きを工夫しながら取り組んだりしている②（観察・話し合い） 思友だちの動きを真似して、新しい動きを獲得しようとしている。③（観察）
まとめる	4	<ul style="list-style-type: none"> ○自分たちの考えた動きを発表する。 ○他の班の良かった動きを伝え合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○一人一人の運動成果を確かめ合うために、努力点や工夫点に注意しながら取り組めるように助言する。 ○互いの動きの工夫点や、体力の高まりを感じながら、ともに認め合えるように全体の場で見返しをする。 	<ul style="list-style-type: none"> 技まわる・くぐる・跳ぶ・止まるという基礎技能を身につけている。①（発表）

6 指導方針

- 単元を通しての慣れの運動を継続して行い、運動の量を確保するとともに、子どもたちの運動表現がスムーズにできるようにする。
- 集団行動が苦手な児童には、個別に声がけをし、整列や自分のステージで動きができるようにする。
- 導入の場面では、子どもが興味・関心をもち意識的に取り組みたくなるように、まわる・くぐる・跳ぶ・止まるという動きをしたくなるような虫を主人公にした紙芝居を用いる。
- 展開の場面では、子どもたちにとって興味がある、身近な虫の動きを用いて新たな動きを獲得するための動作を行わせる。その際、それぞれの虫の特徴を捉えた動きを行えるような場を設定する。(だんご虫→マット、チョウチョ→ゴム跳び、カマキリ→フラフープ、バッタ→跳び箱)。
- 展開の場面では、友だちと関わり合いながら新たな動きを獲得できるように4人グループで活動を行う。その4人で冒険の旅をし、自分のステージでリーダーとなった児童が先頭で考えた動きを行う。それに続いて残りの3人がまねをするというまねっこのルールを設定し、運動に親しむ仲間作りができるようにする。
- 展開の場面では、児童の動きの幅が広がるよう、運動の場を複数用意し、運動に親しむ空間づくりをする。
- 終末の場面では、身につけた動きを共有するためにグループごとに発表会を行って新たな動きの獲得に役立てる。

7 本時の学習

(1) ねらい

まわる、くぐる、跳ぶ、止まるなどの基礎的な運動を、自分の動きだけでなく友だちの動きをまねすることで、楽しみながら運動に親しみ、新しい動きを考えることができるであろう。

(2) 準備

マット (4枚)、跳び箱 (1段を4台)、ゴム (8本)、フラフープ (8個)、コーン (12個)

(3) 展開

学習活動	支援及び留意点	時間	観点評価項目 (方法)
1 集合、整列、挨拶をする		6分	
2 めあての確認			
リーダーの動きを考えたり、まねしたりして、たくさんの動きができるようにしましょう			
2 準備運動をする 【慣れの運動】 ・かえるの足打ち ・うさぎ跳び ・その場回転	○今日の学習の見通しをもつ。 ○4人一組のグループになり、リーダーになる順番を確認させる。 ○簡単な準備運動をした後、慣れ運動を行い、運動量を確保するとともに、子どもたちの運動表現がスムーズにできるようにする	5分	
3 用具の準備をする ○1班 マット 2班 マット 3班 跳び箱 4班 跳び箱 5班 跳び箱 6班 コーン、ゴム 7班 コーン、ゴム	○協力して安全に準備させる。 ○児童が用具を運ぶ時には「○○を運んでいます」と声を出して運び、周囲に用具を運んでいることを知らせる。 ○自分の準備が終わったら遊んでいるのではなく、手伝いを行うことを伝える。また、やることなくなくなったら、決められた集合場所をつくり、そこで座って待機させる。		

<p>4 今できる運動にみがきをかける</p> <ul style="list-style-type: none"> ・マット遊び ・ゴム跳び遊び ・跳び箱遊び ・フラフープバランス遊び <p>5 集合し、友だちの良い動きや感想を伝えあう。</p> <p>【予想される児童の反応】</p> <p>A：工夫された動きができる</p> <p>B：自分で考えた動きができる</p> <p>C：自分の担当の動きが思いつかない</p>	<p>○グループで協力して、それぞれの場（マット、ゴム跳び、跳び箱、フラフープ）でリーダーのまねっこをする。</p> <p>○友だちのよい動きは、声かけをさせる。</p> <p>○場で、よい動きを称賛したり、補助したりする。</p> <p>○ステージを1周取り組んだ後に、グループで集まって話し合いを行う。リーダーの動きをみんなができていたか、どんな風にしたらうまくいったのかなどの感想を伝え合うようにさせる。</p> <p>▲話し合いがうまくできない児童に対しては、どんな動きをやってみたいかこちらから聞く。</p> <p>▲称賛し、後で紹介し全体に広げる</p> <p>▲称賛し、もっと虫の動きに近づくように助言する</p> <p>▲虫の動きをイメージする手助けを行ったり、他のグループの友だちの動きを紹介したりして、動きを一緒に考える。</p>	12分	
<p>6 友だちの良い動きを参考にもう一度行う</p> <p>【予想される児童の反応】</p> <p>C：リーダーの動きのまねができない</p> <p>7 友達の動きでおもしろかったところを発表しあう</p>	<p>▲リーダーの動きと同じ動きができるように、動きをよく見るように声がけする。</p> <p>▲運動の様子を観察し、まねをすることが困難な児童は、自分でできるところだけをまねするよう声かけをする。</p> <p>○グループでやってみて、友だちのおもしろかった動きを伝え合う。</p>	12分	<p>【思】 ◎友だちの動きを見たりまねたりして、工夫した新しい動きを考えられる（観察）</p> <p>○友だちの動きを見たりまねたりして、新しい動きを考えられる。（観察）</p>
<p>8 片付け</p> <p>9 まとめをする</p> <p>10 整列・挨拶をする</p>	<p>○協力して、安全に片付けができるようにする</p> <p>○準備の時同様、児童が用具を運ぶ時には「○○を運んでいます」と声を出して運び、周囲に用具を運んでいることを知らせる。</p> <p>○今までできなかった動きができるようになった児童や工夫した動きを行っている児童を紹介する。</p> <p>○次時は発表会をすることを伝える。</p>	5分 5分	